

2025年度

ニチキッズ保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2026年1月5日（月）～1月31日（土）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2026年2月24日（火）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	総じて、児童の人権や人格に関わる基本的な知識や、それに対する望ましい姿は確立している。しかし経験年数の少ない職員の中には、基礎知識が不十分だったり、定期的に確認が必要と感じている職員もあり、そこが今後の課題と言える。
子どもの発達援助	食に関して、調理従事者と保育者の密な連携は取れている結果が出た。 現在、障がい児が在園していないことも背景にはあるが、障がい児保育（発達に心配があるを含む）について自治体の関係機関の情報共有等をこれからも継続していく。 今後、更なる保育内容の工夫と充実に努め、全領域に渡って豊かな保育を展開していけるように目指していく。
保護者に対する支援	在園の保護者に対する支援等は、まだ不十分ながらも全職員が努力し、真摯に対応しようという姿勢が感じられる。今年度は地域の子育て家庭への支援も計画的に実施することができた。地域への子育て支援の充実は、これからの課題として取り組んでいく。
保育を支える組織的基盤	業務の標準化や園内研修の充実は進んできているが、外部研修への参加や専門書での学びの面でもっと自己研磨していかなければならないと感じている職員がいることが見える結果となった。

総評
毎年、自己評価を行うことで、自分に不足している分野を再確認し、それについて園内研修で取り上げることで理解は深まっていると思われる。年齢ごとの発達の特性を理解した上で、一人一人の興味関心や発達に合わせた関わりをすること、進級後や転園後までを長期に見通し、今日の育ちが明日へと繋がっていくことを認識して保育にあたることを目指しているが、まだ不足なことや努力の足りない部分が保育園全体としてある。発達の連続性を援助する基盤となる職員の連携を大切にしながら、保護者と共に児童の成長を支えていくことを目指していく。